バスラ製油所改良計画（第一期）【イラク】

施策所管局課 国別開発協力第三課
評価年月日 令和5年4月

1 案件概要	
(1) 供与国名	イラク共和国
(2) 案件名	バスラ製油所改良計画（第一期）
(3) 目的・事業内容 *閣議決定日、供与条件などを 含む	<p>イラク南部バスラ県の既存バスラ製油所において、流動接触分解装置（FCC）を含む精製プラント（FCC コンプレックス）を新設することにより、生産性向上を通して、石油製品の品質向上と需給ギャップの縮小、環境負荷の低減・関連技術の移転を図り、もって同国の経済・社会復興に寄与するものである。</p> <p>案件の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FCC コンプレックスの新設 ・コンサルティング・サービス <p>ア 閣議決定日：平成24年5月29日 イ 供与限度額：424.35億円 ウ 金利：0.20%（コンサルティング・サービスについては0.01%） エ 償還（据置）期間：40年（10年） オ 調達条件：日本タイド</p>
2 事業の評価	
(1) 経緯・現状	<p>ア 社会ニーズの現状</p> <p>本事業計画当初、イラク国内14か所の既存製油所では、被災・老朽化等により設備能力低下が深刻で、稼働率は60～75%に留まっており、産油国ながら石油製品を他国から輸入せざるを得ない状況であった。膨大な復興ニーズを抱えるイラクにおいて石油製品の輸入による外貨流出を防止するとともに、石油製品の増産による輸出を通じて外貨を獲得するためには石油精製部門への投資が急務となっていた。</p> <p>現在においてもイラク国内におけるガソリンの需要量に比した国内供給量の不足分が2020年時点で約4.8万BPD、灯油及び經由では約2.5万BPDに上り、産油国であるにも関わらず石油製品を他国から輸入せざるを得ず、石油製品輸入に係る支出が年間37億ドルにも達している。かかる現状を背景に、本計画に係る状況は当初から大きく変わらず、引き続き石油精製部門への投資は急務であることから、現在も本事業に関する社会的ニーズがある。</p> <p>イ 事業遅延に関する経緯・現状</p> <p>本件は、FCC コンプレックスの新設事業であり、事業全体で一本の入札とする必要があると判断されていたが、バスラ製油所改良計画（第一期）の借款契約（L/A）調印後、入札準備中に、イラクにて環境規制が強化されたことを受け、環境基準に適合させるため、軽油水素化脱硫装置（LGOHDT）を事業スコープに追加する必要が生じた。そのため、当時調整中であったバスラ製油所改良計画（第二期）の事業スコープにLGOHDTを追加することとし、追加スコープを含めて改めて入札手続を行う必要が生じたため、入札及びコントラクター調達に遅延が生じた。</p>

	2019年にバスラ製油所改良計画（第二期）にて事業スキープの追加対応以降、現在、事業は順調に進んでいる。
（2）今後の対応方針	本件に関する社会的ニーズが引き続きあり、事業完成後は当初予定どおりの効果が見込まれる。また、事業の進捗を妨げていた要因は解決していることから、支援を継続する。
3 政策評価を行う過程において使用した資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・交換公文 ・外務省の約束状況に関する資料及び案件概要 ・政策評価法に基づく事前評価書 ・国際協力機構の事業事前評価表